



企画にあたって

前村 浩二

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科循環器内科学 教授)

脳卒中や心臓病などの循環器病はわが国の死亡原因の上位を占め、また介護の原因となっている疾患の上位を占めているため、健康寿命の延伸にとって循環器病への対策はきわめて重要である。がん領域では2006年にがん対策基本法が成立し、その対策は格段に進歩したが、循環器病領域ではなかなか基本法が制定されなかった。そのため、日本脳卒中学会と日本循環器学会は関連学会とともに、2016年に「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」を策定し対策に取り組むとともに、基本法の成立に向けて活動した。そして2018年12月に待望の循環器病対策基本法が制定され、翌年から施行された。基本法に基づき循環器病対策推進基本計画が策定され、それに沿って各都道府県でも地域の実状に応じた循環器病対策が始まっている。脳卒中と循環器病克服5カ年計画と基本法は同じ方向を目指しており、現在両者が車の両輪となり循環器病対策が進んでいる。

『Heart View』は通常「診る」「識る」「治す」の構成になっているが、本特集では特定の疾患の診断、治療ではなく循環器病全体に対する取り組みに焦点を当てたため、「現状と課題を識る」「今後の展望を診る」「循環器病対策実装の好事例から学ぶ」という構成にし、循環器病の現状と課題を識り、循環器病対策の今後の展望を診て、循環器病対策の社会実装により循環器病を「治す」という企画にした。

まず「現状と課題を識る」では、わが国における循環器病予防、心筋梗塞診療、心不全診療、不整脈診療の現状と問題点について第一人者の先生方に執筆いただいた。次に「今後の展望を診る」として、5カ年計画を進めるうえでの5戦略の循環器学会側の代表の先生方に、それぞれの戦略の展望について執筆いただいた。さらに「循環器病対策実装の好事例から学ぶ」として、2021年に設立され学会と連携して循環器病対策に注力している日本循環器協会の紹介をいただいた。また各都道府県で取り組んでいる循環器対策推進計画や、地域の循環器病対策の中心となる施設として設立された脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業について、宮城県、熊本県、香川県、青森県の好事例をご紹介いただいた。

本特集を通じて、循環器病対策の現状と今後の展望を識っていただき、読者の皆様も協働して循環器病対策に取り組んで、健康寿命の延伸と循環器病の年齢調整死亡率の減少を目指していただければ幸甚である。